

知的財産に関する基本方針

東レグループは、以下の4つを基本方針として知的財産戦略を構築し実行しています。

1. 経営方針に沿った三位一体の知的財産戦略

東レグループは、重要な経営資源のひとつである知的財産の戦略を、事業戦略及び研究・技術開発戦略と相互に有機的に連携し、「三位一体」のものとして経営戦略を構成する最も重要な要素のひとつと位置付けています。

2. 権利取得の促進

東レグループの製品・技術を守り、利益を確保するために、質の高い特許出願、権利化を推進し、牽制力のある強い特許網の構築に努めています。商標についてはブランド価値向上を意識した適切な権利の取得を実行しています。

なお、2021年度の特許出願件数減少は、費用対効果を考慮した出願国の厳選によるものです。

3. 他人の権利の尊重

他人の権利を侵害することのないように東レグループの製品・技術と他社特許等との関係を包括的に調査する特許確認制度を設けています。商標についても使用前に他社登録商標との関係を確認しています。

4. 自己の権利の正当な行使

東レグループは、他人による権利侵害に対する侵害行為の中止要請のほか、ライセンス許諾による金銭的利益の享受及び他人の権利とのクロスライセンス等、正当な権利行使や活用を行い、状況に応じて適切な措置を取ります。

知財戦略実行のための制度、取り組み

東レグループでは、基本方針に沿った知財戦略を以下の制度、取り組みなどによって実行しています。

1. 特許責任体制、グローバル特許戦略責任体制

東レ本体及び主要関係会社において、製品・技術群ごとに特許責任者を選任し、知財部門、研究部署、技術開発部署、営業部署のメンバーが参画する「特許会議」を設置しています。出願・権利化、防衛、権利活用の活動は、特許会議で検討のうえ進められています。また、各事業分野の技術・生産担当役員をグローバル特許戦略責任者とし、各事業分野において東レ本体及び国内外関係社が行うグローバルな知財活動を指導・監督しています。

2. 知財実行計画の策定、実行

グローバル特許戦略責任者(各事業分野の技術・生産担当役員)の指導のもと、各事業分野における知的財産の重要な課題について「知財実行計画」を策定し、実行しています。特に重点化すべきテーマはAランクプロジェクトに選定

し、注力して推進しています。「知財実行計画」の推進状況については年に一度、取締役会で報告を行っています。

3. 知的財産による他社参入障壁の構築

東レ本体及び主要な国内外関係会社において、特許出願・権利化とノウハウ秘匿を戦略的に使い分け、強固な他社参入障壁の構築を進めています。

4. 特許確認制度

新製品を製造、販売するなどに、当社技術や製品の使用、生産、販売等が他人の特許等を侵害しないことを確認することを徹底しています。

5. IPランドスケープへの取り組み

知財戦略を策定するためにIPランドスケープを実行できる人材(知財アナリストなど)の育成、調査ツールの整備を進め、事業環境の分析、新規・強化テーマの分析、当社特許の活用先探索などへの活用を実践しています。

東レの知的財産の評価

1. 「他社牽制力ランキング2022」

紙・繊維・パルプ業界で首位

パテント・リザルト社が毎年発表している「他社牽制力ランキング」は、先進的な特許出願の指標として、その年の特許審査過程において他社出願への拒絶理由で引用された件数を企業別に集計したものです。東レは紙・繊維・パルプ業界のランキングで11年連続首位を獲得しました。同じ指標を用いているため、紙・繊維・パルプ業界と化学業界をひとつの業界としてランキングしても4位となります。

2. 「特許価値成長ランキング2022」で16位

日経ビジネス誌が、2022年12月末時点で日本企業各社が保有する特許の過去2年間の成長度合いに応じて上位40社をリスト化した「特許価値成長ランキング」で、東レは16位にランキングされました。このランキングでは特許の件数とともに、他社が出願した特許に引用された頻度などを加味した算出方法が採用されており、イノベーションの動向が反映されやすいとされています。

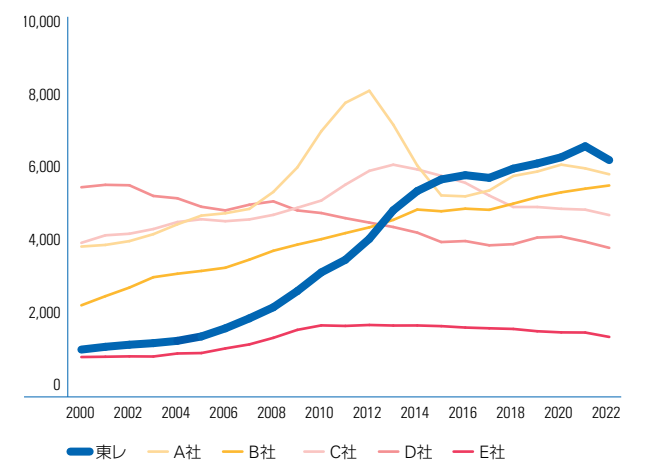
3. 特許価値指標による評価

LexisNexis社「PatentSight®」では特許ファミリーの有する技術的価値と市場価値に基づく特許価値指標PAI (Patent Asset Index™)を提供しています。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すために、17のゴールと169のターゲットから構成される国際目標であるSDGs(Sustainable Development Goals)関連の特許ファミリーについて、東レグループを含む競合6社のPAI推移を表したのが下図です。

東レグループは、国連サミットでSDGsが掲げられた2015年以前を含めて、この20年間でSDGsの達成に貢献可能な関連特許の価値を着実に向上させてきており、2016年からは競合他社に比べ優位なポジションにあります。

SDGs関連特許のPAI推移(6社比較)



*LexisNexis社 PatentSight特許価値(Patent Asset Index)®を用いて当社作成

地球環境問題解決に寄与する東レの知的財産

分離膜技術

東レは1980年代から、人工腎臓やRO(逆浸透)膜などにおいて独創的な分離膜技術を創出し続けており、その深化・展開は更なる広がりを見せています。右の図は、東レグループが保有する分離膜技術に関する特許の状況をマップ化したもので、多数の特許が技術分野毎に色分けされた点で示されています。

これらの内「膜利用バイオプロセス」の分野では、膜技術とバイオ技術を融合させて、非可食バイオマスから高効率・低エネルギーで非可食糖や化学品を製造するバイオプロセスの研究を推進し、タイでは技術実証と事業化検討を行っています。それに伴い、関連特許(赤点)を数多く取得しており、化石資源に頼らない社会の実現に貢献していきます。

分離膜技術関連特許のランドスケープマップ(各点:東レグループの特許)

